

令和5年度 南砺市健康づくり推進協議会 会議録

1. 日 時 令和5年8月29日(火) 午後7時～午後8時15分

2. 場 所 南砺市地域包括ケアセンター 2階 多目的研修室

3. 出席者 出席者：12名

金子 会長、山本 副会長、南田 副会長、中林 委員、竹中 委員、川口 委員、
武部 委員、松井 委員、山本 委員、定村 委員、加藤 委員、寺井 委員

欠席者：3名

長瀬委員（代理出席 桃井班長）、原 委員、藤原 委員

傍聴人：0名

事務局：地域包括医療ケア部長 ほか 9名

4. 会議内容

(1) 開会

(2) 地域包括医療ケア部長挨拶

(3) 会長、副会長の選出について

会 長：南砺市医師会会長 金子 利朗

副会長：南砺市歯科医師会会長 山本 茂

副会長：南砺市地域づくり協議会連合会副会長 南田 実

(4) 協議事項

①各課の健康づくりの取組み状況について

各課より実績・課題、取組みについて説明

妊娠期から乳幼児期の保健事業（保健センター） 資料1・追加資料

保育園における保健事業（こども課） 資料2

小・中学生の保健事業（教育総務課） 資料3

・質疑応答

委員	<p>高齢者のインフルエンザ予防接種はよく聞くんが、肺炎球菌予防接種は初めて聞いた。接種率も低いんが、個別通知など、どのような対策をしているのか。</p>
事務局	<p>高齢者肺炎球菌感染症に対する予防接種は、平成 26 年度から定期接種が開始となり、今年で 10 年になる。対象者は 65～100 歳までの 5 歳刻みの方及び 60～64 歳の心臓病などの基礎疾患のある方で、生涯に 1 回、接種費用の一部を助成している。対象者へは、個別通知や市広報などで周知を図っている。</p> <p>更に、未接種の方には再通知している。</p>
委員	<p>母子の個別の支援プランとあるんが、どのようなプランか。</p>
事務局	<p>妊産婦と乳幼児を対象にした支援計画で、妊娠届出時や妊娠 7 か月の面談、新生児訪問、1 歳 6 か月児健診、3 歳 6 か月児健診時に保健師などが作成し、説明している。</p> <p>内容としては、各時期に合わせた母子保健サービスや子育ての助言などを記載している。例えば、妊娠届出時では、妊娠について職場に伝える時期や妊娠から出産に関する助成制度など、その時期に妊婦本人やその家族に実践していただきたいこと、産後ヘルパーや産後ケア（助産師の訪問）など利用できるサービスについてまとめてある。</p> <p>妊婦本人と専門職と一緒に確認し、支援に繋げている。</p>
委員	<p>朝ご飯の欠食率の割合が、小学校から中学校に上がる時に増加しているんが、その要因として考えられることは何か。</p>
事務局	<p>中学生になると、勉強やスポーツ（部活動、クラブ）の時間が増えてきて、一日の生活の中で睡眠時間が短くなる。また思春期のホルモンバランスの崩れや、メディアの影響も大きく、生活習慣が乱れ、朝起きられず朝食が食べられないことにつながっていると考えられる。規則正しい生活習慣を送ることが、学業と心身の健康のために重要と考えている。</p>

委員	<p>朝食を食べないと、そういった生活習慣が、将来的に生活習慣病につながると 思う。身体だけでなく、心のためにも朝食をきちんと食べてほしいと思う。保護者へ PTA、学校、保育園など組織を通じた更なる周知も必要と思う。</p>
事務局	<p>欠食、肥満は将来の生活習慣病につながるため、重要な健康課題と認識している。 規則正しい生活習慣を送ること、健康的な食生活を心掛けること、定期的な運動を行 うことの重要性を本人や保護者に理解してもらうことが大切と考えている。学校内だけ の教育にとどまらず地域や保健、医療機関などと連携して理解を広げていきたい。</p>
会長	<p>炭水化物のみの朝食なども含め、貧困が理由で朝食を食べさせられない家庭 はあるか。</p>
事務局	<p>様々な家庭環境（ひとり親、虐待など）の家庭があるため、全くないとは言えない。 教育総務課では、問題を抱える家庭に対し、こども課と協力しながら支援している。</p>
事務局	<p>こども課では、保育園、小中学校、高校の家庭の支援を担っている。貧困家庭や育児 放棄の家庭もある。丁寧に寄り添いながら、健やかな子どもの成長発達及び保護者へ の支援を行っている。</p>
委員	<p>低体重児の割合が国や県と比較して高いが、赤ちゃんの体重の内訳はどうか。 極低体重児が増えているのか。低出生体重児の予防への取り組みについて聞きたい。</p>
事務局	<p>低出生体重児には多胎児も含めて計上している。手持ちデータがなく、今は提示で きないが、極低出生体重児の割合が増えているという印象はない。 対策としては、妊娠届出時や妊娠7か月の面談で保健師、管理栄養士が個別相談 を行っている。また、「なんとHug」の相談機能や適時の一斉配信などで相談しやす い環境を整えている。</p>

委員	<p>小中学生において、メディアの利用は依存性があり、視力低下や睡眠不足など、学業だけでなく健康にも影響している。</p> <p>小中学生以前の保育園、幼少期からスマホを見せている保護者が多くいる。幼少期からのメディアに関する取り組みが大切に思うが、どのような対策をしているか。</p>
事務局	<p>幼少期におけるメディアの活用の実態としては、動画を見せていれば子どもは黙ってみているという便利さがあり、0歳児からタブレットを与えている保護者が多くいる。</p> <p>肥満や生活リズムの乱れ、視力の低下がみられる子どもには、保育園で個別相談を実施しているが、広く全体の家庭へメディア利用についての啓発が必要と捉えている。こども課では、妊娠期からの指導も必要と考えており、今後、保健センターと連携も図っていききたい。</p>

②南砺市民健康プラン[第2次]の最終評価(案)について

資料4・別紙・参考資料

・事務局から、南砺市民健康プラン[第2次]の最終評価(案)を説明。

・質疑応答

委員	<p>健診で血液検査を行うが、血液検査はどの程度の頻度で行うものなのか。</p>
会長	<p>治療中の疾患やその病状により、かかりつけ医(各医療機関)の判断で異なる。例えば、糖尿病のように受診時に血糖値の変動を調べるため血液検査が必要なケースがある。一般の方は、年1回の健康診断で血液検査を実施してほしい。</p>
委員	<p>31地域づくり協議会など市民と一体となった取り組みを行うことが書かれているが、各地域別のデータを出すことは可能か。各地域別の指標があれば地域づくり協議会としても行動を起こしやすい。</p>
事務局	<p>先日の地域づくり協議会と行政支援員の研修にも、地域カルテが話題に上がっていた。地域の状況、データの提示がないと、何が地域にとって課題なのか見えてこないこともあるかと思うので検討したいと思う。</p>
委員	<p>全ての項目でデータが出るとは思わないが、小中学校で取っている統計であれば、各小中学校別に出せるのではないか。出してもらえれば対応を考えやすい。</p>

事務局	地域毎の抽出がシステム上可能であるか、倫理上個人が特定されないか、地域毎の比較に適するものかなど、内部で検討していく。
会長	地域別にデータを出すのはいい考えだが、母体数が小さいと統計として有効か。
委員	地域別で活動するのであればデータがほしいのは妥当な意見。受診率、死亡率などの主要なものだけでいいのではないか。
事務局	時間がかかるものもあるので、何が提供できるのか検討していきたい。

③南砺市第3次健康プランの骨子(案)について

資料5

・事務局から、南砺市第3次健康プランの骨子(案)を説明。

・質疑応答

委員	健康格差とは何か。
事務局	地域や社会経済状況の違いによる集団における健康状態の差のこと。 都道府県(自治体間)での健康寿命の格差の要因を把握・分析し、その縮小に向けた取り組みを強化する国の健康指標。例えば、社会的格差(所得や学歴)、労働の格差(非正規雇用・正規雇用)、家庭・地域環境の格差(貧困や無医村)などの要因が健康寿命に影響を及ぼすと考えられている。
厚生センターからの助言	事業評価を丁寧に実施している。健康プランに示されている成人、高齢者部分の各課の健康づくりの取り組み状況は次回ということで、残念だった。次期プランについては、国の指標に合わせて作成されるようだが、南砺市の課題を盛り込みながら策定してほしい。

5. その他

・今後のスケジュールについて

6. 閉会